

「市立伊丹病院あり方検討委員会 検討報告書(素案)」からの変更点

項目番号	委員意見等	報告書(案) 該当ページ	【新】 報告書(案)	【旧】 報告書(素案)
1	(事務局より提案)	もくじ P2	平成30年4月の兵庫県保健医療計画の <u>改定</u> により、～	平成30年4月の兵庫県保健医療計画の改正により、～
2	・タイトル「他の基幹病院との連携のあり方」には違和感があり、文面を見ると連携対象に診療所が含まれているので、タイトルと内容が一致していない。地域の診療所や中小の病院を含めた記載にして欲しい。 ・公立病院と限定せず、医療機関と記載した方が良い。	もくじ P29 P37 P39	【課題タイトルの変更】 「他の <u>医療機関等</u> との連携のあり方」	「他の基幹病院との連携のあり方」
3	(事務局より提案)	P23	「市立伊丹病院の建て替えの最適な時期」に関する主な意見 【意見追加】 ● 20年、30年前の考えとして、「病床60床に手術室が1つ」というイメージで設計されたが、手術室を効率的に運用するためには、手術を準備する部屋や緊急時等の運用も考えると、2～3室の余裕を持つておく必要があると感じている。新たに病院を建設するのであれば、60床に1室という考えではなく、少なくとも50床に1室、それ以上が必要ではないかと考える。 ● 手術室は緊急時等への対応のためにも、余裕がある方が良く考える。	「市立伊丹病院の建て替えの最適な時期」に関する主な意見

項目番号	委員意見等	報告書(案) 該当ページ	【新】 報告書(案)	【旧】 報告書(素案)
		P23	● 病院の中で急性期、回復期、慢性期などの相談がすぐにでき、すぐに回答をいただけるような部署（地域医療連携室）には余裕を持ったスペースを設けるべきだが、建設当時はそのような発想、ニーズがなく、パーティションで間仕切りしているような状況である。今後も地域連携に対するニーズは高まるので地域医療連携室のスペースや人員体制の強化をしていかなければならないと考えている。 ● 築後年数が30年以上経過している病院では、6人部屋の病室が多く、現在は4人部屋として使用しているので、病床数が減ってしまっている状況にある。	
4	・ 阪神北圏域からの流出が多く見られるのは、がん、循環器疾患、脳血管疾患などであり、ICD-10では脳血管疾患が循環器疾患に含まれるが、多くの人にはわからないので、区別して書いてほしい。 ・ 災害医療に関する記載も必要だと思う。 ・ 「災害に強い」というキーワードは加えていただきたい。 ・ 総論部分は、「すべき」という内容ばかりが記載されている。冒頭に「医療の進歩に対応しつつ、市民に最善の医療を提供する」というような大命題があり、そのためには何々が必要という順番で書かれている方が良い。 ・ 介護施設や在宅医療の記載も入れるべき。	P38	「(1) 基本的方向（総論）」 『<u>医療の進歩に的確に対応し、市民に最善の医療を提供するため</u>、市立伊丹病院は近畿中央病院と統合し、他の医療圏域への流出が多くみられる、<u>がんや脳血管疾患、心血管疾患</u>などに対応できる機能を有し、<u>かつ災害時にも対応できる</u>500床超規模の阪神北医療圏域における基幹的な病院をめざすべき。 併せて、阪神北医療圏域の他の<u>医療機関や介護施設等</u>との円滑な連携や役割分担を図ることにより、市民が住み慣れた地域で必要な医療や介護サービス等を受けることができるよう努めるべき。』	【事務局案】「(1) 基本的方向（総論）」 『市立伊丹病院は近畿中央病院と統合し、他の医療圏域への流出が多くみられる循環器系疾患などに対応できる機能を有した500床超規模の阪神北医療圏域における基幹的な病院をめざすべき。 併せて、阪神北医療圏域の他の公立病院間においても、円滑な連携や役割分担を図ることにより、市民が住み慣れた地域で必要な医療を受けることができるよう努めるべき。』

項目番号	委員意見等	報告書(案) 該当ページ	【新】 報告書(案)	【旧】 報告書(素案)
5	(再掲) ・ 災害医療に関する記載も必要だと思う。 ・ 「災害に強い」というキーワードは加えていただきたい。	P21 P39	(2)課題に対する望ましい方向性 ①高度急性期医療を担う中核病院の必要性 他の医療圏域への患者流出の多い新生物や循環器系疾患に対応するため、脳神経外科・心臓血管外科などの診療体制の充実に努め、 高度な医療の提供や、災害時に対応できる 体制を構築し、地域における医療完結率の向上に努めるべき。	(2)課題に対する望ましい方向性 ①高度急性期医療を担う中核病院の必要性 他の医療圏域への患者流出の多い新生物や循環器系疾患に対応するため、脳神経外科・心臓血管外科などの診療体制の充実に努め、高度な医療を提供できる体制を構築し、地域における医療完結率の向上に努めるべき。
6	(再掲) ・ 介護施設や在宅医療の記載も入れるべき。	P37 P39	(2)課題に対する望ましい方向性 ⑤他の 医療機関等 との連携のあり方 (略) また、阪神北医療圏域の他の公立病院との連携強化を図るとともに、地域の民間病院・診療所、 及び介護施設 などとの連携強化や機能分化を推進していくべき。	(2)課題に対する望ましい方向性 ⑤他の基幹病院との連携のあり方 (略) また、阪神北医療圏域の他の公立病院との連携強化を図るとともに、地域の民間病院・診療所などとの連携強化や機能分化を推進していくべき。
7	・ 近畿中央病院の理念にある、公立学校共済組合員のメンタルヘルスや職場復帰支援の機能は新病院が引き継ぐ必要があるのか。統合に向けてそういった内容の議論も必要である。	P40	【項目追加】 (3)今後検討を進めていくうえでの留意事項 ① 伊丹市は、市立伊丹病院と近畿中央病院の統合を前提とした協議を公立学校共済組合との間において進めることができるよう調整を図ること。 なお、協議に際しては、伊丹市と公立学校共済組合がそれぞれ担うべき役割等を明確にするとともに、持続可能な病院運営に留意しつつ、安定的・継続的に質の高い医療が提供できるよう、慎重に検討を進めること。	

項目番号	委員意見等	報告書(案) 該当ページ	【新】 報告書(案)	【旧】 報告書(素案)
8	・地域全体で医療の質を上げるためには、地域医療、介護も含めた教育研修機能やコーディネート機能が必要ではないか。 ・病院がどのような経営形態を選択したとしても、伊丹市としての一機能という位置づけになる。伊丹市としてやってほしいことも盛り込むべき。	P40	【項目追加】 (3) 今後検討を進めていくうえでの留意事項 ② 基幹病院機能や回復期病床のあり方の検討に際しては、診療所や病院をはじめ、介護施設や在宅医療などと、より一層の円滑な連携を図ることができるよう、行政担当課の配置も含めた体制づくりも検討すること。	
9	・高度急性期という方向性に進むのであれば、救命救急医療、がん治療等については、広い範囲で多くの医師を集めて全分野で高い水準の医療が必要となる。それには、医者数はもっと必要になると思うので、高度医療を進めるうえでたくさんの能力の高い医師を集めるということが必要である。	P40	【項目追加】 (3) 今後検討を進めていくうえでの留意事項 ③ 限りある医療資源を有効に活用するため、関連大学等と連携した専門医の育成に努めるとともに、診療体制と機能を高めつつ、施設や設備の充実を図ることにより医療従事者の勤務環境を向上させ、より多くの若手医師などが集うような基幹病院を目指すこと。	
10	(事務局より提案)	P40	【項目追加】 (3) 今後検討を進めていくうえでの留意事項 ④ 兵庫県地域医療構想で示された病床規模、病床区分（高度急性期、急性期等）を踏まえるとともに、兵庫県保健医療計画で示されている阪神北医療圏域において担うべき役割や、将来の治療方法の変化や患者の意識の変化への対応についても意識すること。	

項目番号	委員意見等	報告書(案) 該当ページ	【新】 報告書(案)	【旧】 報告書(素案)
		P40	⑤ 阪神医療圏域における高度急性期病院については、兵庫医科大学病院や県立尼崎総合医療センター、関西労災病院があることに加え、県立西宮病院と西宮市立中央病院の統合も打ち出されていることから、これらの病院との役割分担等を踏まえ、必要な機能・体制等を検討すること。 ⑥ 兵庫県地域医療構想において、阪神北医療圏域の公立・公的病院は、「基幹病院間で定期的な情報交換の場を持ち、統合再編も視野にいった連携と今後のあり方を検討」することとなっていることから、阪神北医療圏域の公立・公的病院及び設立自治体等が行う検討とも十分に調整を図り、同圏域内における役割分担や円滑な連携に努めること。	
11	・新病院は重症感染症にも対応できる病床を確保して欲しい。	P40	【項目追加】 (3)今後検討を進めていくうえでの留意事項 ⑦ がんや脳血管疾患、心血管疾患などに加え、阪神北医療圏域において十分な対応ができていない新型インフルエンザ等感染症などへの対応も併せて検討すること。	

項目番号	委員意見等	報告書(案) 該当ページ	【新】 報告書(案)	【旧】 報告書(素案)
12	・ 市民も参加できるような仕組みも必要ではないか。ボランティアで、院内に市民が描いた絵を飾ったり、展覧会を開いたり、市民と創り上げていくようなメッセージが欲しい。	P40	【項目追加】 (3) 今後検討を進めていくうえでの留意事項 ⑧ 市立伊丹病院の今後のあり方を具現化していくにあたっては、地元医療関係者や市民の理解が得られるよう努めるとともに、市民ボランティアの参画など、市民とともに魅力ある病院を構築していくことができる仕組みづくりを検討すること。	
13	(事務局より提案)	P40	【項目追加】 (3) 今後検討を進めていくうえでの留意事項 ⑨ 本検討委員会からの報告に加え、平成30年度に伊丹市により実施された「市立伊丹病院のあり方に関する市民アンケート」の調査結果を真摯に受け止め、このアンケート結果に十分配慮し、今後の市立伊丹病院のあり方を明確にしていくこと。	